



平成 31 年 4 月 23 日

報道機関各位

## 授業理解度が低い児童の生活習慣と家庭環境

授業理解度が低い児童は、起床時間が遅く、学習時間が少なく、メディア時間が長く、  
両親がタバコを吸い、家庭にゆとりがない傾向

富山大学地域連携推進機構地域医療保健支援部門の山田正明助教、関根道和教授らは、富山県内の児童を対象とした研究から、小学生の家庭環境や生活習慣と授業理解度との関係を分析し、新たな知見を得ましたので公表します。

今回の研究は、文部科学省スーパー食育スクール事業の追加調査として平成 28 年 1 月に高岡市内の小学生児童 2129 名を対象として行った調査結果を分析したものです。回収数は 1,986 名(回収率 94.2%)、有効回答数は 1,663 名(78.1%)でした。授業理解度は、「授業の内容がわかりますか？」の質問に対して 5 段階(よくわかる～わからない)で質問し、「よくわからない」、「わからない」と回答した児童を授業理解度が低いと定義しました。授業理解度が低い児童の割合は 18.0%(男子 17.4%、女子 18.6%)でした。

その結果、児童の生活習慣については、起床時間を見ると、6:30 までに起床する児童に比べ、7 時までの児童は 1.36 倍、7 時以降の児童では 2.48 倍、授業理解度が低い児童が多いという結果でした。また、メディア時間が 2 時間以上(平日)では 2 時間未満に比べて 1.35 倍、自宅での学習時間では 1 時間未満では 1 時間以上に比べて 1.82 倍、授業理解度が低い児童が多いという結果でした。

家庭環境については、父親が喫煙する家庭の児童は、喫煙しない家庭に比べて 1.47 倍、母親が喫煙する家庭の児童は 1.87 倍、授業理解度が低いという結果でした。家庭内の暮らしのゆとりでは、ゆとりがある家庭に比べて、ない家庭では 1.48 倍、授業理解度が低いという結果でした。

今回の研究から、ゆとりがない家庭の児童は、授業理解度が低い傾向が認められましたが、児童自身や両親の生活習慣が授業理解度と強い関連を示しており、これらの生活を変えることで、児童の授業理解度を高めることができるのではないかと思います。経済格差が学力格差を介して健康格差などの問題を引き起こさぬよう、児童自身、家庭、社会全体での総合的な対策が求められます。

## 授業理解度の低い児童との関連 多変量解析

OR: オッズ比と95%信頼区間

\*:  $p < 0.05$

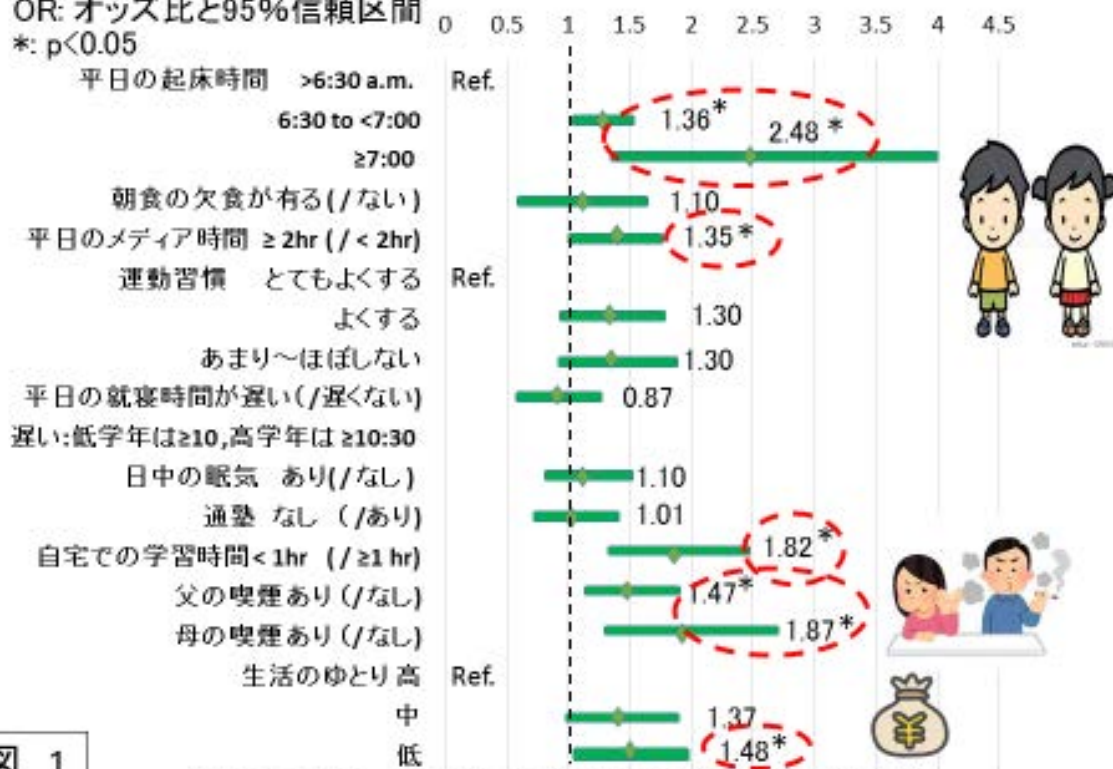


図 1

Yamada et al. Environ Health Prev Med. 2019;24(1);22.

### 論文情報

Yamada M, Sekine M, Tatsuse T, Asaka Y. Association between lifestyle, parental smoke, socioeconomic status, and academic performance in Japanese elementary school children: the Super Diet Education Project. Environmental Health Preventive Medicine. 2019;24(1):22. doi: 10.1186/s12199-019-0776-x. (平成 31 年 4 月 9 日掲載)

#### 取材可能日時

月曜日 9:00 - 18:00  
 火曜日 13:00~18:00  
 水曜日 9:00 - 11:30  
 木曜日 9:00 - 18:00  
 金曜日 なし

#### 【本件に関する問い合わせ先】

富山大学地域連携推進機構  
 地域医療保健支援部門 助教 山田 正明  
 930-0194 富山市杉谷 2630  
 TEL 076-434-7270 FAX 076-434-5022  
 E-mail: masaakit@med.u-toyama.ac.jp